

若手を指導する桑野さん



主 幹

神戸工業試験場

桑野 浩一さん

わが社の **マイスター**

神戸工業試験場（兵庫県播磨郡、鶴井昌徹社長、079・435・5010）は、航空・宇宙、エネルギー、自動車などの分野で金属部品の疲労や強度といった多様な試験を手がけている。信頼性の高い試験所を認定する「JISQ17025」のほか、航空・宇宙の分野では特殊工程管理の国際認証「Nadcap（ナドキャップ）」を取得している。生産本部材料試験部強度試験課の桑野浩一主幹（60）は同社の試験技術を支える。高校卒業後約40年間、同社一筋で金属の強度や硬度など試験の腕を磨いてきた。桑野主幹の入社以降、高い品質要求に合わせた認定取得が徐々に重視されるようになった。「当時は過去の蓄積もない中、問題集に向き合いながら一から自力で勉強した」と苦労を明かす。金属の材料試験に関する技能検定1級を取得してから約30年間、技能検定の試験官を務めてきた。神戸工業試験場は毎年、検定会場になっており同社からの受験者は多い。「一人でも多くの合格者を出したい」（桑野主幹）思いは強く、試験片の形状測定から試験機の点検、試験結果の評価まで指導に汗を流す。こうした功労が高く評価され、2019年11月には瑞宝単光章を受章した。

若手の「考える力」養い技術伝承

大手重工メーカーからの試験受託も増加する中、中塚博秀執行役員は「技術伝承できる体制を築かなければならない」と強調する。そこで同社は桑野主幹をはじめ熟練技能者に対し、実務から離れて若手指導に注力するポストに据えた。17年から若手の主体的なオンライン・セッション（オンライン）に比重を置き、熟練技能者はその都度アドバイスする教育体制とした。若手が自ら考える力を付け、皆で発想を持ち寄ってコミュニケーションを活性化できる」と桑野主幹。技術伝承の好循環をつくりだす。（大阪・中野恵美子）（水曜日に掲載）